射水市教育委員会６月定例会会議録

Ⅰ　開会日時　平成２５年６月２６日（水）　　　　開会　１０時００分
　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　閉会　１１時４０分

Ⅱ　会議場所　下庁舎２０１会議室

Ⅲ　出席委員
　大代委員長、眞岸委員長職務代理者、伊藤委員、高田委員、結城教育長

Ⅳ　会議事件説明員
　橋詰教育次長、亀田教育次長、尾山学校教育課長、島田生涯学習･スポーツ課長、仙田教育センター所長、正橋学校給食センター所長、島崎中央図書館長、原田新湊博物館長、杉本学校教育課主幹、吉野生涯学習･スポーツ課主幹、塩谷学校教育課長補佐、作道生涯学習係長

Ⅴ　傍聴人数　０人

Ⅵ　会議の要旨
　１０時００分、委員長が開会を宣し議事に入った。

１　会議録の承認
　承認された。

２　教育長の報告
（１）射水市議会６月定例会提出議案について
（２）６月定例議会開催状況について
　教育長及び教育次長が資料１、２に基づき説明した。

３　各課等の連絡事項及び報告事項
（１）チームティーチング指導員及び学習サポーター配置の効果について
（２）「いじめをなくす射水市民五か条」の啓発について
　学校教育課長が資料３、４に基づき説明した。
（３）いじめのない学校・学級づくりのために
　教育次長が別冊「いじめのない学校･学級づくりのために」について説明した。
（４）じいちゃんばあちゃんの孫育て談義結果概要
　生涯学習係長が資料５に基づき説明した。
（５）第４０回日独スポーツ少年団同時交流
　生涯学習・スポーツ課長が資料６に基づき説明した。
（６）平成２５年度 研修事業計画
　教育センター所長が資料７に基づき説明した。
（７）平成２６年度 射水市重点事業 [国、県要望]

教育次長が資料８に基づき説明した。
（８）射水市教育行政要覧について
（９）教育委員会行事予定
学校教育課長補佐が資料９、10 について説明した。
射水市展、海王丸ロードレースについて、生涯学習・スポーツ課長、主幹が説明した。

５　その他
次回教育委員会の開催日時について
日時・場所は、７月２４日（水）午前１０時から下庁舎で会議を開催

６　議事
（１）チームティーチング指導員及び学習サポーター配置の効果について
[委員]　チームティーチング学習サポーターについて、現場からもう少し増やしてほしいといった要望はあるのか。
[事務局]　十分な数を確保しているとは言えないが、これを契機に先生方にスキルアップの意識を持っていただきたいと考えている。配置数については多いに越したことはないが、財政的なこともあり予算の範囲内で配置している。
（２）「いじめをなくす射水市民五か条」の啓発について
[委員]　五か条については、北日本新聞の「論戦を振り返って」を見ると、五か条の啓発について市から報告がなされており、五か条を作って終わりじゃないということを当局が示しているのが感じられるというコメントが掲載されていた。市民からも五か条いいですねと声をかけられ、家の食卓に張って、活用しているとのこと。いじめ問題は世界中どこにでもある。大人社会にもある。なかなか撲滅は大変だが取り組むことで、撲滅を目指していくことが大事。
（３）いじめのない学校・学級づくりのために
[委員]　対症療法ではなく予防ということに力点を置いたところが良いと思う。策定したからには学校でしっかり取り組んでほしい。先生方も読まれ、研修にも大いに活用してほしい。
（４）じいちゃんばあちゃんの孫育て談義結果概要
[委員]　戸破地区に参加したが、たくさんの方がいらっしゃった。30 名くらいで 3 つのグループに分け話し合いをした。各々話す機会が回ってくるので、しっかりと話をされていたのが良かった。家庭教育があって学校教育がある。家庭でやるには地域が参加しないと話にならないことを、他の方々、来られてない方や若いママたちにも知っていただきたいと思った。今年は試験的に 2 か所ですが、どの地区でも実施していただきたい。家庭教育をこうやれば少しでも助けてもらえるということを、皆さんに知ってもらったほうが、学校への信頼も増すと思う。

[委員]　子どもを地域で育てるという風土づくりにもなる。マスコミを通じて情報発信したらよいと考える。ケーブルテレビなどでの発信など、波及効果が倍増する。

[事務局]　ケーブルテレビで放送してもらえるよう取材に来てもらった。

7月1日16時半、富山テレビの「夕どきタイム」で6分間の特集を組んでもらった。射水市の新たな取組ということで情報発信する。

実施当日、3時と6時に北日本放送でもニュースで放送された。新聞は翌日掲載されている。

[委員]　家庭教育アドバイザーの方がしっかり進行をやっていただいて、参加者の意見を引き出すのに効果があったと考える。このような能力を持つ方々を育てていく必要性も感じている。

（５）第４０回日独スポーツ少年団同時交流

[委員]　射水市のスポーツ少年団との交流はあるのか。

[事務局]　スポーツ少年団がどこまでかかわることができるかということについての話は、まだしていない。決まった時点でまた報告したい。

[委員]　過去の例では、ホームステイをしていたこともあり、ホストファミリーと歓迎会をしていた。

ドイツは高校生以上の者が来ることが多い。日本のスポーツクラブは１種目型であるし、ドイツは多種目型である。日本の小学生とスポーツ交流することもままならない。同時交流なので子どもたちが外国人と接して、良かったと思えるような事業となればいい。

（６）平成２５年度 研修事業計画

[委員]　研修内容について、民間の小児科の医師を迎えての研修や、人間学を学べる民間企業から研修、価値判断基準につながる研修内容もあればいいのでないか。他の業界の考え方、捉え方の違いから学ぶことも多いと思うので、ぜひ、そういう研修もあっていいと思う。

[委員]　先生は生徒の点数をつけるのが得意。生徒も先生の点数をつけている。どの先生の言うことを聞こうか、聞かまいか考えている。同じことを話していても、子どもたちの取り方が違う。サッカーサポーターとＤＪポリスの例にもあるように、心に響く語りかけが大切。先生は自分の思いをどれだけ子どもの心に伝えることができるか。これが一番大切なことだと考える。親も家庭も地域も同様である。

[委員]　教員研修は県教育委員会が計画、実施している。教科、生徒指導や道徳に関することなど、その他、学校でも必要な校内研修を実施している。

市教委では、市で特に必要とすることを研修している。全員を対象にしたものが、先述の人間学などの研修に該当している。また、社会のいろいろな方々の意見を取り入れるという点については、学校評議員の方々の意見を聞いたり、学校保健会が行う研修の中で、校長をはじめ教員等が医師の話を聞いている。引き続き、いじめをなくすことは大事なことと捉えており、それに対応する能力のアップを市として取り組む必要があると考え

ている。

　県でも初任者研修をしているが、若年層教員の学校の中での不適応感、学校になじまないなど若年うつが全国的にも問題となっており、メンタル的なところを市でも初任者研修で取り組んでいる。採用２、３年の教員研修も今年から実施しており、若者の能力アップを図る必要があると考える。

　また、特別支援における発達障害の子どもたちを、どうやって理解し、指導していくかの研修は必要感が高まっており、市として取り組むべきこととして認識している。

１1時４０分、議事等が終了したので委員長が閉会を宣した。